

認知症を正しく知って つなげよう理解の輪

65歳以上の認知症高齢者は全国で推計462万人といわれます(厚生労働省調べ)。加齢による認知症は特別な病気ではない、誰でもなりうる脳の病気。さまざまな原因で脳細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりすることで障害が起り、生活するうえで支障が出ている状態のこと。「何度も同じ話を繰り返す」「直前の行動が思い出せない」「筋道を立てた思考ができなくなる」は一般的な認知症の症状ですが、正しく理解されず悲しい思いをする人がいます。認知症の人が住み慣れた地域で自立した生活を送るには家族や周りの人の理解や協力が必要です。

認知症クイズに挑戦する本荘第一小の児童



認知症サポーター養成講座

市では、認知症への理解を深めるために、認知症サポーター養成講座を行っています。

認知症サポーターは何か特別なことをするわけではありません。認知症の人を温かく見守る応援者。認知症が脳の病気である

小学生向け講座を地域の輪で実施

認知症サポーター養成講座は小学生も対象に実施しています。今年度も740人余りの小学生サポーターが誕生します。

実施には介護施設の職員などで構成される認知症キャラバン

市では、認知症への理解を深めることを理解し、認知症の人とのかかわり方を知る人です。身近に認知症の人がいたら、そっと見守る、そっと手助けする、人が大勢いることで、「認知症の人やその家族が安心して暮らせるまち」の第一歩につながります。

また、認知症に関するクイズも行い、正解者にプレゼントする。また、地域の人や介護施設利用者にも協力していただき作成しました。

また、認知症に関するクイズも行い、正解者にプレゼントする。また、地域の人や介護施設利用者にも協力していただき作成しました。



講座受講者に渡される「オレンジリング」



読み聞かせボランティアが紙芝居を読み上げると児童たちは熱心に聞き入りました



紙芝居は印旛明誠高校美術部のみなさんが夏休みを利用して作成しました

また、認知症に関するクイズも行い、正解者にプレゼントする。また、地域の人や介護施設利用者にも協力していただき作成しました。

お出かけ前
カギより先に
火の確認

最優秀賞に輝いた
小林芽生さんの作品

▼イオンモール千葉ニュータウン(中央北)：11月9日～15日
▼市役所(大森)：11月16日～24日
※印西地区消防組合のホームページでも掲載します。児童たちの力作をご覧ください。

■入賞作品を展示します

防 火ポスター・標語
入賞作品決まる

秋の火災予防運動(11月9日～15日)の一環として、印西地区消防組合では管内の小学生から防火ポスターと標語を募集しました。今年度は28校から1,128点の応募があり、印西市からは標語の部で、市立小林小学校6年小林芽生さんが、最優秀賞(印西地区消防組合管理者賞)に輝きました。

ご参加ありがとうございました グリーンカーテンコンテスト

市では、地球温暖化対策や省エネルギー化のため「グリーンカーテン」を推進しています。今年の夏も市民のみなさんにゴーヤやアサガオの種子を配布し、取り組みを推進してきました。そこで、9月に実施した市主催の「グリーンカーテンコンテスト」に応募いただいた市民のみなさんの作品や感想をご紹介します。

☎環境保全課環境保全班 (☎内線 364)。



北条さん(木刈)の作品



鈴木さん(舞姫)の作品

■紹介します みなさんの感想

- ・8月の電気料金が12%減になりました。
- ・緑色のゴーヤが風に揺られているのを見ると涼しさを感じます。
- ・マンション5階のプランター栽培でも大きく育ちました。
- ・猛暑で野菜が高騰しましたが、我が家はビタミン豊富なゴーヤ料理で夏バテ知らずでした。

みなさんからの報告では、グリーンカーテンは千円くらいの予算から取り組めるそうです。室内の温度や経済的な効果はもちろんですが、緑のカーテンによる癒やしや植物を育てる楽しみなども増えたそうです。来年も多くの人に取り組んでいただけることを期待します。